

平成30年度 宇都宮市立城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 健康で豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを目指して、感性を磨き、社会的知性と実践力を身に付ける。

目指す児童像 ・進んで勉強する子ども（かしこく）
 ・思いやりのある子ども ・喜んで働く子ども（なかよく）
 ・健康で明るい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ「みんなが 楽しく 城山中央小学校」
 「子どもが楽しく、教師が楽しく、保護者が楽しく、そして地域が楽しく」

<児童にとって> ・居がいを感じ楽しい学校
 <保護者・地域にとって> ・学校の取組に信頼が寄せられる学校
 <教師にとって> ・子どもとふれあい、教育に楽しさを感じる学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ、長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し、その発展に努める。
- (2) ○学校経営の中核に児童の確かな学力の定着を位置付け、基礎基本の確実に習得させ、課題解決に必要な資質能力を育てる。
- (3) ○規範意識や倫理観などの社会性を身に付け、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成に努める。
- (4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに、家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実させ、地域に根ざした開かれた「地域に信頼され、地域の核となる城山中央小学校」の実現に努める。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、授業力、学級経営力を向上させるとともに、チームとしての学校の力を高めていく。
- (6) 城山学校園教育ビジョンにのっとり、小中一貫教育を推進するとともに、学校園内各小学校との連携による地域一体の教育を推進する

【城山地域学校園小中一貫教育ビジョン】 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～
 学校園内小中学校が連携し合い、地域の教育力を生かしながら、「自他を尊重し、郷土に愛着を持ち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

【城山地域学校園小中一貫教育スローガン】 合言葉は「愛」
 みんなで育てよう！自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山っ子

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】
 ○学ぶ楽しさ、豊かな心の育成を目指した、和と協働の学校づくりの推進
 ～みんなが楽しく、城山中央小学校～
- 【学 習 指 導】
 基礎基本を身に付け、自ら考え生き生きと表現する児童の育成
- 【児 童 生 徒 指 導】
 ○思いやりの心を持ち、決まりやルールを守り、主体的に行動ができる児童の育成
 ～児童と児童、児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して～
- 【健康（保険安全・食育）・体力】
 自分の体に関心を持ち、進んで健康の保持増進と体力の向上に励む児童の育成
 ～教科体育や体育的行事の充実と児童が体を動かしたくなる体育的環境の整備～

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者、地域と一体化した学校づくりの推進 ② 児童・保護者・教師・地域の思いを把握し、学校運営に生かす。 ・学校運営推進委員会の設置	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>93.5%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.1%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 「みんなが楽しく城山中央小学校」のテーマを、児童、保護者、地域に発信し、その実現に向かって、具体的に取り組んだことで、学校への愛着が深まり、望ましい雰囲気作りができている。 【次年度の方針】 テーマの実現に向けて、それぞれの立場、分掌において何ができるかを意図的に考え、学校経営の充実を図っていく。	児童	93.5%	保護者	95.1%	地域住民	100%	教職員	100%
	児童	93.5%										
	保護者	95.1%										
地域住民	100%											
教職員	100%											
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 全体アンケートの「教職員は、協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 教職員の資質と能力の向上に努める。 ・教育に対する理念、使命感、豊かな人間性、教育実践力、動向を察知した対応力等の向上 ・「報告・連絡・相談」の徹底 ・学年交換授業や教科担任制の推進 ・教師一人一人の授業力の向上 ② 学習活動における「考える力」を重視した指導について研究し、児童一人一人の思考力の育成と学力の向上に努める。 ・学習のめあての提示 ・ふり返り ・自分の考えを書く活動 ・学び合い活動の充実	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>99.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 授業づくりのために研修や授業研究会を行うなどして、教師一人一人の授業力向上を図ってきた。学習のめあての提示と振り返りの活動を徹底することで児童の学力向上に努めた。 【次年度の方針】 めあての提示と振り返りの活動が定着してきたので、今後も児童の学力が確実に定着できるよう継続していく。	児童	99.6%	保護者	94.6%	地域住民	100%	教職員	100%	
児童	99.6%											
保護者	94.6%											
地域住民	100%											
教職員	100%											
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 基本的な生活習慣と規範意識の育成に努める。 ・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ② 家庭・地域・関係諸機関と連携を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>86.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.9%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2%</td></tr></table> 日々の教育活動を通して、基本的な生活習慣と規範意識の育成に努め、児童の肯定的回答が数値目標を上回った。教職員については、昨年度と同様の肯定的回答が得られた。 【次年度の方針】 「城央小のよい子」をベースに全職員の共通理解のもとで指導・支援にあたり、児童一人一人にとって、「楽しい学校・居がいのある学校」づくりを継続して推進する。 職員研修等で教職員の人権感覚の醸成に努める。	児童	86.7%	保護者	89.9%	地域住民	100%	教職員	95.2%	
児童	86.7%											
保護者	89.9%											
地域住民	100%											
教職員	95.2%											

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的な朝の学習の推進と見通しを持った授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT指導等の効果的实施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ② 家庭・地域への広報の仕方を工夫する。	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>99.2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> B 朝の学習の時間を活用して、全国、県、市の調査問題を解く時間を設け、基礎基本の習熟を図った。また、定期的に授業力向上に関わる研修を行い、授業に生かせる指導について研究してきた。 【次年度の方針】 本年度の課題を分析し、確かな学力を育むための学習や指導について、さらに工夫・改善を図っていく。	児 童	99.2%	保護者	91.3%	地域住民	100% ↑	教職員	100%
児 童	99.2%									
保護者	91.3%									
地域住民	100% ↑									
教職員	100%									
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を推進する。 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・<u>あいさつ運動の実施等見守り体制の整備</u> ・潤いのある学校環境の整備 ・「さん」付けの呼び方の徹底 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・学校便りやホームページで公開 ・道徳の授業で公開	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>99.2%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>85.6% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> B 教職員は、いじめに対する危機意識を常にもって児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。また、様々な取組の結果、指導の実態が保護者や地域住民にも理解されている。 【次年度の方針】 児童の日々の生活の様子を的確に把握することによって、いじめに結び付くような諸問題を早期に発見し、迅速に対応する。問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、家庭と連携して指導にあたる。	児 童	99.2%	保護者	85.6% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	100%
児 童	99.2%									
保護者	85.6% ↑									
地域住民	100% ↑									
教職員	100%									
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「自分の学校での生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① マネジメントサイクルを活用した特色ある教育課程の編成に努める。 ・「児童が生き生きと活動できたか」という視点からの学校行事等の反省・改善	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>96.6%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>98.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2%</td></tr></table> B 日課を簡略化するとともに、授業や学校行事を充実したことで、学校生活について、児童の満足感が醸成されている。 【次年度の方針】 より児童の資質、能力を高めるのに必要な教育課程の編成をめざし、行事の精選を図っていく。	児 童	96.6%	保護者	98.8%	地域住民	100%	教職員	95.2%
児 童	96.6%									
保護者	98.8%									
地域住民	100%									
教職員	95.2%									
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。 ・開かれた学校、学級づくりの推進 ・うつのみやオープンスクール、授業参観、学校自由参観等の効果的な実施 ・学校便り、ホームページ、学年便りなどの充実による積極的な情報発信 ・保護者、<u>地域の方との積極的なコミュニケーション</u>	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>97.2%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> B 開かれた学校づくりを目指し、各種便りやHPによって学校から発信したり、授業参観等を実施し、児童の様子を公開したりすることで、保護者や地域住民からの信頼を得られるよう取り組んできた。 【次年度の方針】 来年度も引き続き、各種便りやHPによる情報発信を継続していく。	児 童		保護者	97.2%	地域住民	100%	教職員	100%
児 童										
保護者	97.2%									
地域住民	100%									
教職員	100%									

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。 ・「町の先生」の年間指導計画への位置づけ ・各育成会や地域行事への積極的な参加 ・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施 ・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>94.8%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.8%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 学習活動の充実を図るための地域人材の活用を推進することができた。特に企業や地域ボランティア団体と連携し、出前授業を実施することができた。 【次年度の方針】 学習のねらいを意識し、学習効果がより高まるような地域人材の活用を計画的に進めていく。	児 童	94.8%	保護者	94.8%	地域住民	100% ↑	教職員	100%
児 童	94.8%									
保護者	94.8%									
地域住民	100% ↑									
教職員	100%									
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 教室や校内の学習環境を整える。 ・教室環境の見直しと改善 ・日常の清掃活動の工夫改善と充実 ・まごころ広場や花壇・教材園の整備 ・各委員会等、児童を主体とした清掃活動 ② P T Aやボランティアの協力を得て、環境整備に努める。 ・トイレやオープンスペースの美化	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>98.7%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>90.0%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5%</td></tr></table> 教室の掲示物を統一したり、新しく作成したりして学習環境の見直しを図った。また、児童が安全に活用できるようまごころ広場の整備を行った。 【次年度の方針】 廊下の掲示物を新しいものに更新したり精選したりして、校内環境の改善を図っていく。	児 童	91.1%	保護者	98.7%	地域住民	90.0%	教職員	90.5%
児 童	91.1%									
保護者	98.7%									
地域住民	90.0%									
教職員	90.5%									
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・年間を見通した計画の作成と実践 ・成果や課題の共有化 ② 小中合同の行事や活動に積極的に取り組む。 ・年2回のあいさつ運動の推進 ・冒険活動教室での交流 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ ③ 地域学校園組織の活性化を図る。 ・分科会の持ち方の工夫 ・地域学校園内の情報の共有化	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.2% ↓</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.9%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>85.7% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 小・中の相互乗り入れを積極的に行ったり、小中合同であいさつ運動を実施したりし、小中一貫教育に取り組んだ。また、地域学校園の分科会では前年度の反省を生かし、今年度の取り組みに生かすなど、地域学校園の組織の活性化に努めた。 【次年度の方針】 小中間で学校の様子や児童の様子などについて、さらなる情報共有に取り組む。また、小中の相互乗り入れ授業やあいさつ運動の様子を児童や地域住民に便り等で知らせる。	児 童	85.2% ↓	保護者	90.9%	地域住民	85.7% ↓	教職員	100%
児 童	85.2% ↓									
保護者	90.9%									
地域住民	85.7% ↓									
教職員	100%									

教育活動の状況	B 1	児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 全体アンケートの「児童は、毎日の学習時間を決めて、集中して取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 家庭と連携して、学習習慣の確立を図る。 ・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた、発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫 ・家庭学習の成果の評価と意欲の喚起 ・「学習習慣定着強化週間」を定期的に設定して、家庭と連携した指導に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>79.8%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>78.4% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2% ↑</td></tr></table> 学習習慣定着強化週間における家庭学習啓発や、宿題等での一人一人への細かな支援を行ってきたことで、児童の家庭での学習習慣が身に付いてきた。 【次年度の方針】 家庭学習の習慣ができてきたので、時間を意識させたり、内容の充実を図ったりできるよう、家庭と連携を図りながら取り組んでいく。	児童	79.8%	保護者	78.4% ↑	地域住民		教職員	95.2% ↑
	児童	79.8%											
	保護者	78.4% ↑											
	地域住民												
教職員	95.2% ↑												
A 11	多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケートの「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 学習、活動場面において多様な専門性を有する学校スタッフの積極的な活用を図っていく。 ・学校図書館司書による学習教材の準備や図書の選定 ・朝の学習時間におけるかがやきルーム指導員の活用 ・本校独自の「英会話タイム」でのALTとの連携	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0%</td></tr></table> 図書館司書、かがやきルーム指導員、ALTや地域のサポーターと連携を図り、指導に取り組めたことは、児童にとっても分かりやすい活動であった。しかし、計画を立てたり外部と連絡を取ったりする時間の確保が必要である。 【次年度の方針】 計画を見通し、早期に学校スタッフと連携を図っていく。	児童		保護者		地域住民		教職員	81.0%	
児童													
保護者													
地域住民													
教職員	81.0%												
A 12	教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケートの「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 授業づくりを通じた学校スタッフとの打合せ及びコミュニケーションを図る。時間の確保をしている。 ・連携が図れる授業の検討 ・連絡ファイルや資料の共有活用	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td></td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 学校スタッフとは、時間の確保が難しい分、短い時間で、その都度、確実に打ち合わせを行いコミュニケーションを図った。 【次年度の方針】 学年間で、時間を確保しながら、臨機応変に学校スタッフと連携を図っていく。	児童		保護者		地域住民		教職員	100%	
児童													
保護者													
地域住民													
教職員	100%												
	A 13	児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開 ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・児童会が中心となっていく「あいさつ運動」の実施 ・クラス単位の「あいさつ運動」の実施 ② 家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・ホームページでの周知	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童</td><td>92.7%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>70.0% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0%</td></tr></table> 学校と家庭・地域が連携してあいさつの習慣化に取り組んだが、保護者や地域住民の肯定的回答は、目標を下回った。校外でのあいさつの習慣も身に付ける必要を感じる。 【次年度の方針】 様々な機会を通して、保護者に協力を呼び掛け、各家庭におけるあいさつの習慣化を推進する。教職員は、日々の生活場面での指導に根気強く取り組む。	児童	92.7%	保護者	74.6%	地域住民	70.0% ↓	教職員	81.0%
児童	92.7%												
保護者	74.6%												
地域住民	70.0% ↓												
教職員	81.0%												

健康・体力	A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 基本的マナーと状況に応じた言葉づかいの励行に努める。 ・時と場をとらえた指導の継続（訂正・賞賛） ・「職員室の入り方」等掲示物の作成と活用 ・「礼儀」についての道德の授業の展開	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>71.4%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>70.0% ↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0%</td></tr></table> 児童や保護者の肯定的回答は昨年より上回ってきているが、地域住民の肯定的回答は、目標を20%も下回り、課題が残った。 【次年度の方針】 教職員自身の言葉づかいについて常に振り返る場面を取り入れ、時と場に相応しい言葉づかいで接することを意識させる。 人権週間やいじめゼロ運動で、言葉づかいにも目を向けさせる。 生活場面において、日々繰り返し指導していく。（です、ます、敬語等）	児 童	85.1%	保護者	71.4%	地域住民	70.0% ↓	教職員	81.0%
	児 童	85.1%									
	保護者	71.4%									
地域住民	70.0% ↓										
教職員	81.0%										
B2 児童は、思いやりの気持ちを持って生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は友達にやさしく、思いやりがある。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 一人一人を大切にすると人権教育を推進する。 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ② まごころカードを継続的に実施する。 ・居がいのある学級づくり ・保護者への啓発活動の実施	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2%</td></tr></table> 全体的に、肯定的回答の割合が高かった。学級経営においては、児童一人一人に目を配り、互いのよさを認め合う場を設定し、係活動を活性化しながら、居がいのある学級づくりを推進した。 【次年度の方針】 児童に接する教職員の言動が大きく影響することから、教職員の人権感覚・人権意識を高いレベルで維持できるよう、研修等の機会を設ける。 問題が生じた場合は、学校全体で問題を共有し、組織的に対応していく。	児 童	91.9%	保護者	93.3%	地域住民	100%	教職員	95.2%	
児 童	91.9%										
保護者	93.3%										
地域住民	100%										
教職員	95.2%										
A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が進んで運動に取り組むことのできる <u>体育的環境の整備</u> と体を動かす遊びの日常化を図る。 ・竹馬や一輪車などの遊具の整備 ・まごころ広場の活用 ・「みんなで遊ぶ日」の工夫と外遊びの奨励	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>89.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>75.1% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>88.9%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 業間休みや昼休みには、元気に外遊びをする児童の姿が見られた。また、まごころ広場も有効に活用された。 【次年度の方針】 体育の授業でのがんばりカードの有効活用により、児童に各自の運動目標を明確に持たせ、目標に向けて運動を奨励する。 なかよし班やクラス等で、「みんなで遊ぶ日」を有効に活用し、進んで運動する機会を設ける。	児 童	89.9%	保護者	75.1% ↑	地域住民	88.9%	教職員	100%	
児 童	89.9%										
保護者	75.1% ↑										
地域住民	88.9%										
教職員	100%										

学 習 等	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、好き嫌いなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 75%以上	① 食の指導や給食指導の充実 ・朝食をとっていない児童への指導 ・養護教諭、学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施 ・家庭と連携した食の指導 ②「すこやか教室」の実施 ・町の先生と連携した食育の指導	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>89.5% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2%</td></tr></table> 年度当初に全校で給食指導の共通理解を図り、学年に応じた食育指導の推進により、児童の肯定的回答が高まった。また、食育コーナーの充実により、児童の食への興味関心が高まった。 【次年度の方針】 全校体制で給食指導の共通理解を図る。食育だより等の有効活用を継続して行う。各教科、学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した食育の授業を実施する。	児 童	89.5% ↑	保護者	79.3%	地域住民		教職員	95.2%
	児 童	89.5% ↑									
	保護者	79.3%									
地域住民											
教職員	95.2%										
B3 児童は、自分の健康や体力に関心を持って生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康に気を付け、めあてをもって生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	① 家庭と連携して、健康の保持・増進に努める。 ・健康診断結果の適切な処置 ・手洗い・うがいなどの衛生的な生活習慣の確立 ・保健委員会を中心とした健康の保持・増進を目指した啓発活動 ② 体力向上のための工夫・改善に努める。 ・各種検定や全校生で取り組む強化月間の実施 ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・元気っ子体力テストの活用	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>91.9%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>77.1% ↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 元気っ子体力テストの結果を保護者に知らせることにより、体力向上のための保護者の意識が少し高まった。 【次年度の方針】 体育の授業等でのがんばりカード等の活用により、体力向上のための具体的な目標を明確化させ、自分の健康や体力に関心をもたせる。 元気っ子チャレンジ、ミニマム等の目標を児童に意識させ、継続的に体力向上に取り組めるよう、支援する。	児 童	91.9%	保護者	77.1% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	100%	
児 童	91.9%										
保護者	77.1% ↑										
地域住民	100% ↑										
教職員	100%										
A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 基礎・基本の確実な定着を図る。 ・少人数指導、習熟度別学習等の工夫 ・話の聞き方や発表の仕方など徹底 ・「城央小の学習の仕方」に基づいた基本的な学習態度の徹底 ② 児童の学習意欲を高め、共に学び合う授業の展開を図る。 ・学習意欲を喚起する工夫 ・共に学び合う学習展開の工夫	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>94.4%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.3%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 基礎・基本の確実な定着を図るため、授業中の基本的な学習態度の育成に努めた。また、児童の学習意欲を高めるため、学び合いの場や内容に合った学習形態を取り入れるようにしてきた。 【次年度の方針】 児童の学習意欲を喚起できるよう引き続き学習形態等を工夫しながら授業を展開していく。	児 童	94.4%	保護者	90.3%	地域住民	100% ↑	教職員	100%	
児 童	94.4%										
保護者	90.3%										
地域住民	100% ↑										
教職員	100%										

A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒ 保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒ 教職員の肯定的回答 90%以上	① 学び合いを重視し、「学ぶ楽しさ」と「考えるおもしろさ」を味わわせながら、思考力の育成を図る。 ・話の聞き方や発表の仕方など学習のきまりの掲示物の作成と活用 ・話す力・聞く力・学び合う力の向上を目指す授業の工夫 ・共に学び合う学習活動の工夫 ② 「わかる授業」の推進 ・明確な課題の提示と板書等の工夫 ・個に応じた指導 ・教師の自主的、自発的研修の推進	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>89.1%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 「分かる授業」の推進のために、課題提示を明確にしたり、板書や教材等を工夫したりして、理解を促す授業を実践してきた。 【次年度の方針】 学びに向かう集団作りのために、児童が主体的に学習する場面設定をしたり、「できた」「分かった」喜びを味わわせる授業を実践したりして、学業指導の充実を推進していく。	児 童	89.1%	保護者	87.5%	地域住民	100% ↑	教職員	100%
児 童	89.1%									
保護者	87.5%									
地域住民	100% ↑									
教職員	100%									
A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒ 保護者の肯定的回答 80%以上	① 地域でのボランティア活動や行事を紹介する。 ・ホームページで紹介 ・各種便りで周知 ・掲示物の工夫	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>85.5%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.6%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>90.0%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5%</td></tr></table> 保護者の肯定的回答が目標を下回った。休日は、習い事などで、時間が取れない状況もあると思うが、ボランティア活動や行事が、具体的にいつあるか、どのようなものがあるのかを周知する必要がある。 【次年度の方針】 ボランティア活動や行事について、いつでもどこで行っているかを、学校から発信して、児童の参加の意識を高める。	児 童	85.5%	保護者	73.6%	地域住民	90.0%	教職員	90.5%
児 童	85.5%									
保護者	73.6%									
地域住民	90.0%									
教職員	90.5%									
B4 児童は、進んで読書に取り組み、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は進んで読書に取り組み、読書を楽しんでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒ 保護者の肯定的回答 75%以上	① 読書活動の充実を図る。 ・全校一斉、教師と児童の朝の読書の徹底 ・必読書感想カードの実施・表彰 ・ボランティア教職員による読み聞かせの実施 ・多読者賞の表彰 ・家庭と連携した家読の推進 ・読書リレー ・地区市民センターの利用方法の周知や朝読書の様子の紹介 ・絵本の国の整備	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td>88.3% ↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.7%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table> 朝の読書やボランティアによる読み聞かせ、読書リレーの実施によって、進んで読書に取り組み、読書を楽しむ児童が増え、保護者も肯定的な回答が増加している。 【次年度の方針】 学校での読書の様子や取り組みを「図書館だより」や「学年だより」で紹介していく。	児 童	88.3% ↑	保護者	68.7%	地域住民		教職員	100%
児 童	88.3% ↑									
保護者	68.7%									
地域住民										
教職員	100%									

本校の特色・課題等	B5 学校は、保護者や地域住民と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりに努めている。	① 危機管理意識の高揚を図る。 ・定期的な登校・下校指導の実施 ・避難訓練，防犯教室の実施 ・AED研修 ・アレルギー対応（エピペン研修） ・スクールサポーターやまごころサポーター等との連携 ・子ども110番の家の確認及び更新	【達成状況】 <table><tr><td>児 童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>92.5%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr></table>	児 童		保護者	92.5%	地域住民	100%	教職員	100%
	児 童										
	保護者	92.5%									
	地域住民	100%									
	教職員	100%									
	【数値指標】										
	全体アンケートの「学校は、保護者や地域住民と連携を図りながら、安全で安心な学校づくりに努めている」		安全で安心な学校づくりの取り組みは、一定の評価を得ることができた。保護者や地域と連携を図りながら取り組んだ成果といえる。								
	⇒保護者の肯定的回答90%以上		【次年度の方針】								
	⇒地域住民の肯定的回答90%以上		学校・保護者・地域住民・関係機関が相互に連携し、安全で安心な学校づくりを推進する。また、多方面から情報を収集したり、迅速に対応したりすることによって、保護者や地域住民からの信頼を得るようにする。								
	⇒教職員の肯定的回答90%以上										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校運営の状況に関するA1「学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」の肯定的回答の割合が、児童・保護者・地域住民・教職員とも90%を上回った。特に児童の肯定割合が増したことは、学校経営の理念である「みんなが楽しく、城山中央小学校」の実現が図られているといえる。 ・A5「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」では保護者の肯定回答が16.3ポイント増した。教職員が、いじめに対する危機意識を常にもって児童一人一人の指導にあたりたり、様々な取組を各種便り等で紹介したりし、保護者や地域住民にも理解されてきている。更に継続して取り組んでいきたい。 ○教育活動の状況のうち、学習に関するA17・A18の肯定的回答の割合が増した。これは2年間の「とちぎっ子学力向上応援団派遣事業」への取組の成果が表れてきた結果といえる。明確な課題の提示や学んだことが分かる板書の工夫、個に応じた指導や支援等を通して「分かる授業」の具現化を推進することによって、学習意欲や学力の向上に繋がった。来年度は、学びに向かう集団作りのために、児童が主体的に学習する場面設定をしたり、「できた」「分かった」喜びを味わわせる授業を実践したりして、学業指導の充実を推進していく。 ○A10「学校は、小学校と中学校が連携したの取組を主体的に行っている。」の肯定的回答が、児童7.8ポイント、地域住民14.3ポイント下降した。小・中の相互乗り入れを積極的に行ったり、小中合同であいさつ運動を実施したりし、小中一貫教育に取り組んでいるが、児童全体や地域住民への理解が不十分なので、取組についての情報伝達について工夫改善を行う。 ○A13「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答が、地域住民で10ポイント下降した。学校と家庭・地域が連携してあいさつの習慣化に取り組んだが、全体としては十分とはいえない状況である。様々な機会を通して、保護者に協力を呼び掛け、各家庭におけるあいさつの習慣化を推進したり教職員は、日々の生活場面での指導に根気強く取り組んだりしてあいさつが自然にできる児童の育成を目指す。 ・A23「児童は読書に取り組み、読書を楽しんでいる」では読書活動の充実を図り児童の肯定的回答が11ポイント増した。保護者の肯定的回答は4.7ポイント増したが、まだ70%に達していないので家庭と連携した家読の推進を継続していく。
--

6 学校関係者評価

○A10「学校は、小学校と中学校が連携したの取組を主体的に行っている。」の肯定的回答で児童、地域住民のポイントが下降した要因をしっかりと分析し改善することが必要と考える。「小中一貫」という言葉は理解、浸透されてきているが、「地域学校園」は理解が不十分である。分かりやすい言葉で何度も説明したり取組等を紹介したりしていく努力が必要である。 ・A19の児童の肯定的回答が少しずつ上がってきているのはよいことである。ボランティア活動や行事について、いつどこで行っているかを、学校から発信して、児童の参加の意識を高め100%を目指してほしい。 ・A16における児童の肯定的回答が上がり安心している。嫌いなものでも友達が応援してくれ、食べられるようになり感謝したい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度に比べ、各評価項目で児童の肯定的回答のポイントが増した。今年度の取組を継続し、更に地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進するために、下記のような4つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させる。

